

掲示用

令和3年中 事業用トラックが第1当事者となった死亡・重傷事故

全ト協 交通事故統計分析結果(発生地別) 概要

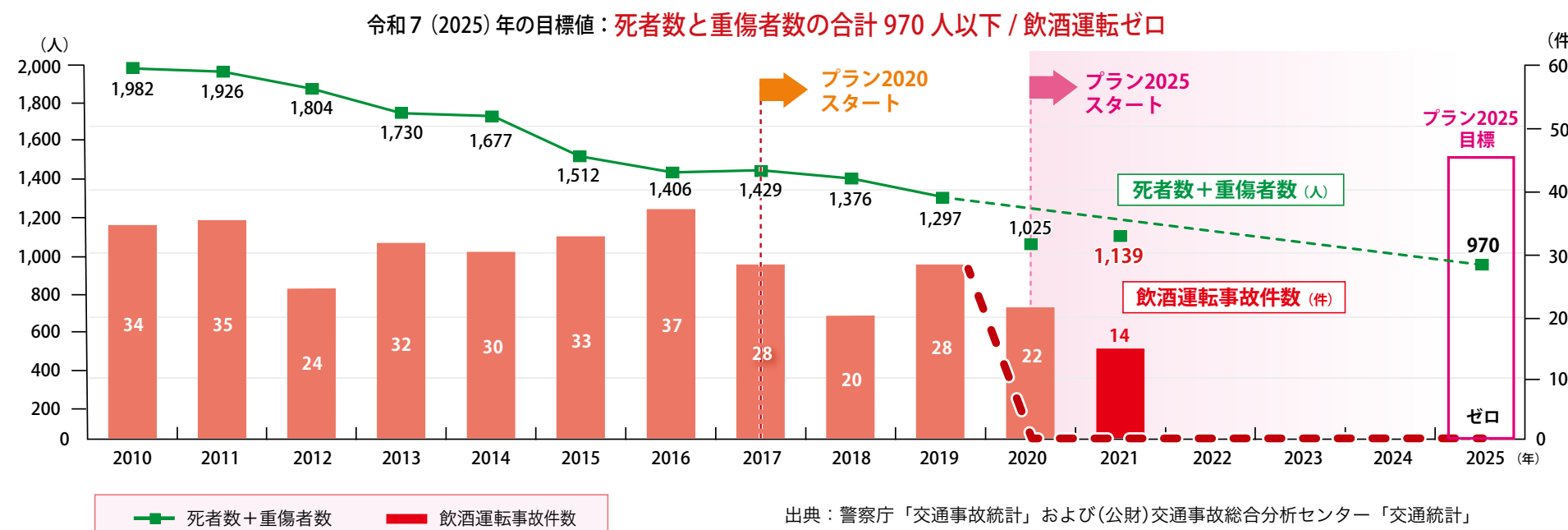
この交通事故統計は、警察庁が公表した令和3年中における事業用トラック(軽貨物を含まない)が第1当事者となる交通事故を、事故類型別、車両区分別等、多角的視点から分析したものです。こうした分析結果をもとに、同種事故の再発防止に向けた取り組みを強化しましょう。

◆「トラック事業における総合安全プラン2025」目標値と現況

令和3年中の死亡・重傷事故の合計件数は1,065件、死者数・重傷者数の合計は1,139人で、「トラック事業における総合安全プラン2025」の目標である「970人」は未達となっている。

事業用トラック1万台当たりの死者数と重傷者数の合計は8.6人で、目標である「6.5人」を2.1人上回った。

飲酒による人身事故件数は14件と、飲酒運転根絶には至っていない。

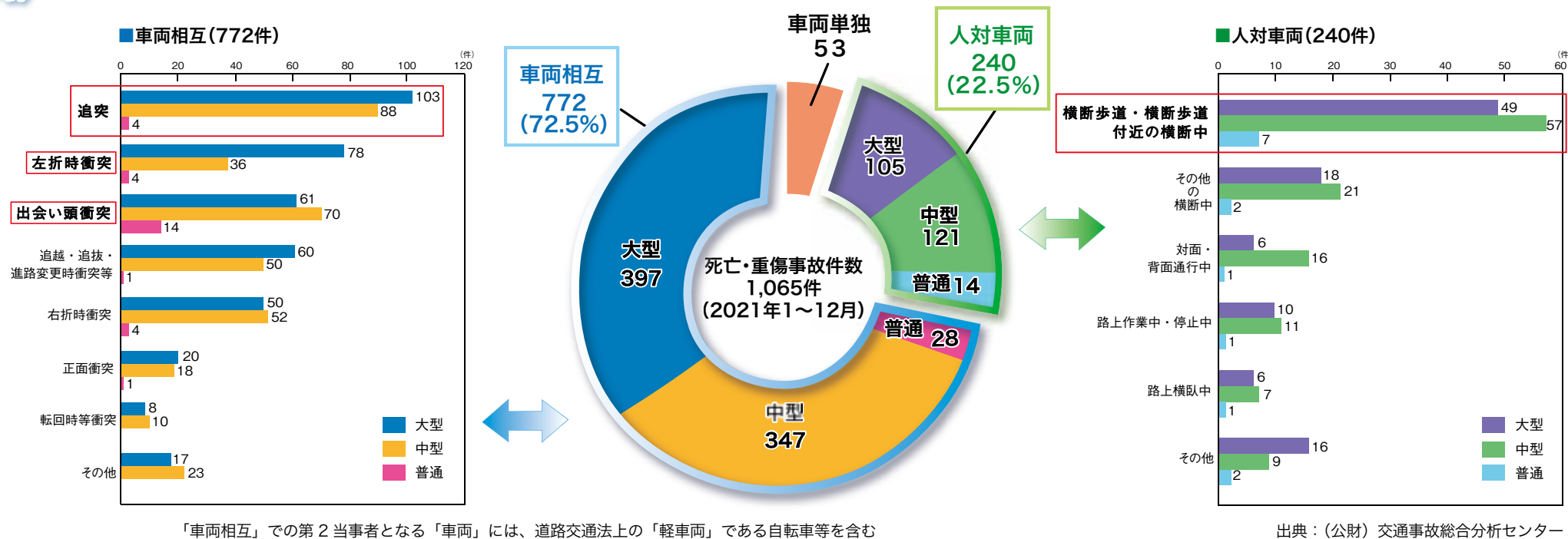


◆事故類型別(車両相互・人対車両)

「車両相互」が最も多く772件(72.5%)、次いで「人対車両」が240件(22.5%)。

■「車両相互」
車種別でみると、大型は「追突」(103件)と「左折時衝突」(78件)が、中型は「追突」(88件)と「出会い頭衝突」(70件)が多い。

■人対車両
どの車種でも「横断歩道・横断歩道付近の横断中」が突出し、「その他の横断中」と合わせた「横断中」合計が「人対車両」全体の6割強を占める。

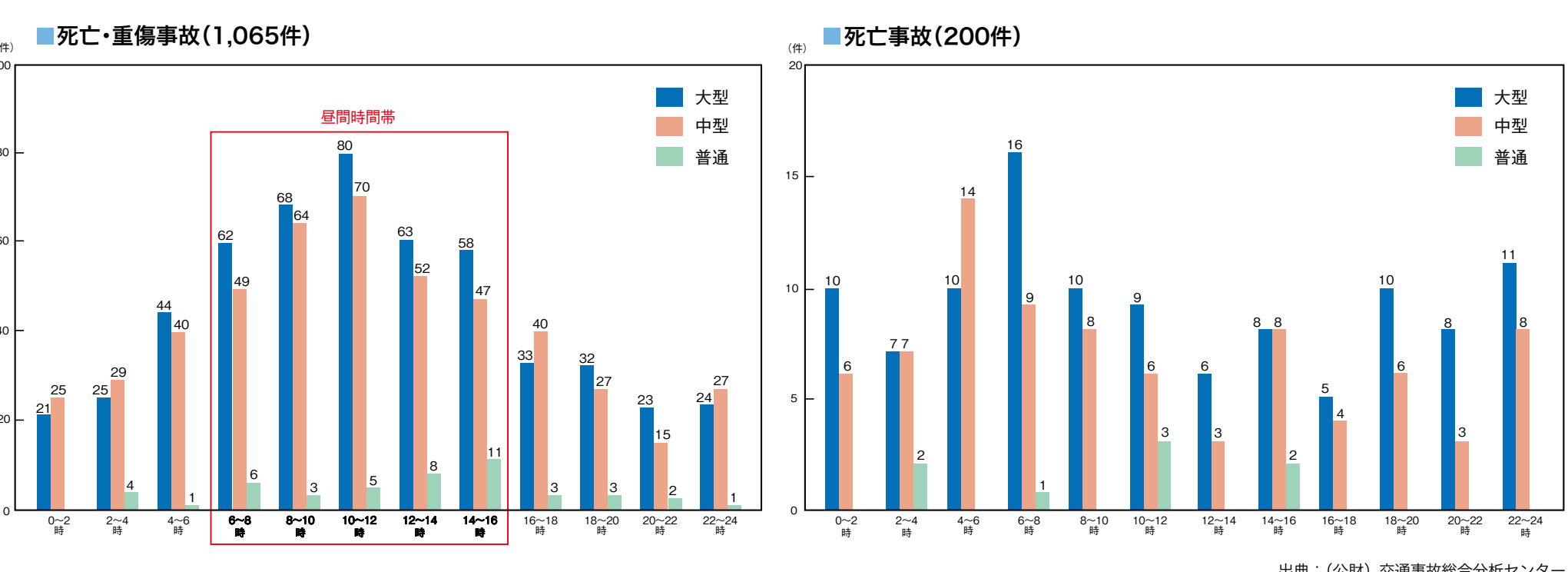


◆車両区分別・時間帯別

「死亡・重傷事故」と「死亡事故」では、時間帯別の傾向が明らかに異なっている。

■「死亡・重傷事故」
ほぼすべての車種で「10~12時」をピークに昼間時間帯(6~16時)が多い。

■「死亡事故」
大型車はすべての時間帯で事故が起きている。また「死亡・重傷事故」と比較すると、大型・中型は深夜帯に多く発生している。



◆交差点における死亡・重傷事故(対歩行者・対自転車別)

事業用トラックが第1当事者となる交差点における対歩行者、対自転車の死亡・重傷事故(287件)は、追突事故(195件)の1.5倍。

■「左折時」: 8割以上が対自転車(93件)。対歩行者では、大型が約9割。

■「右折時」: 8割近くが対歩行者(79件)。大型・中型が多く、合計すると対歩行者・対自転車ともに7割超。

■「直進時」: 5割以上が対自転車(41件)。中型が多く、対歩行者・対自転車ともに約4割。

